

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0171200207		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	グループホーム だんらんこがね		
所在地	恵庭市黄金南4丁目13番地の1 (電話) 0123-35-4226		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年7月27日	評価確定日	平成19年8月20日

【情報提供票より】 (平成19年7月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年 8月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算	5.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	12,000～20,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要 (7月27日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3	要介護2	3		
要介護3	1	要介護4	2		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 88.5歳	最低	83歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵み野病院・恵庭南病院・ユーアイ歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「だんらんこがね」は幅広く福祉サービスを展開する法人恵み野介護サービスのグループホームとして存在し、その人らしく生活することを目的に『ゆっくり・いっしょに・たのしく』の理念を基盤に地域に根ざした暮らしを支えることを目指し努力されています。ホーム内は広々として威圧感がなく共用空間や居室とも居心地よく暮らせる配慮が随所に感じられます。また、利用者の思いを大切にするケアサービスを家族の意向を踏まえながら常に点検し、より良い支援に努めるため、職員のスキルアップ研修などを積極的に行なっています。法人の多機能資源と連携を図り、1ユニットの利点を活かした外出支援や個別ケアも特徴的で家族や利用者の状況に応じた柔軟なサービスが展開されています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価については、共用空間へのカレンダーの設置、入浴実施日の確実な記録、「ホーム便り」の発行頻度を増す事が改善課題でしたが、すでに取り組み改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者及び管理者は、サービス評価を積極的に活用して行こうと前向きな姿勢で臨み、評価の意義や活用方法について職員に伝えています。全職員が十分な検討を行ないながら客観的に判断をし評価を実施しています。また、改善計画の作成についても検討が始まっています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、会議用に独自の基本情報シートを作成し、提供しているサービス内容や活動、現状について詳細に報告がされています。現在は地域密着型サービスを実施するための課題や方法について、活発な意見交換や討議を行ない、出席者からの助言などにより利用者、職員が交通安全旗を持ち、学童の登下校時に声掛けを行なう「高齢者と子どもの触れ合いを、日常の中で実現する取り組み」がされています。実際に会議でのアイデアが活かされ、取り組みに繋げています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情については、苦情処理要領にもとづき具体的な対応方法を実施し、再発防止や運営に反映させる体制が整えられています。ホームでは家族・職員の交換ノートを設置し、意見や不安について家族から気軽に出して頂く仕組みを作っており、「だんらんこがね」の課題発見と資質向上に活かされるよう前向きに取り組んでいます。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の諸行事への参加やホーム主催のイベントにお招きをするなど地域の人々と繋がりを持ちながら孤立することのない暮らしを築いています。また、重点項目②のように、運営推進会議の協力を得ながら、地域で必要とされる活動や役割を担う努力がされ交流や連携を深めています。さらに地元ボランティアの受け入れを積極的に行ない、ホーム機能の還元にも努めています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり・いっしょに・たのしく」の事業所理念にもとづき、「家庭的な環境の下で」のサービスを具現化しています。また、住み慣れた地域との関係性を重視して地域密着型サービスを目指しています。	○	現在、地域密着型サービスの意義を理解し、開設当初からの理念を見直すことに取り組まれています。省令で加えられた「地域住民との交流の下で」の役割を盛り込まれた独自の事業所理念の策定を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りやミーティング、カンファレンス等により良いサービスについて、理念に立ち戻りながら方針や解決策を打ち出されており、管理者と職員は理念にもとづき日々の中で実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、総会や新年会を始めゴミ拾いや焼肉懇親会など地域活動への参加やホーム主催「だんらん祭り」に地域の方々をご案内して交流を深めています。また、小学生下校時に交通安全旗を持ち声掛けや、入居前加入の老人会・婦人会への継続参加、同郷の会への出席、人形劇・ハーモニカ・民謡などのボランティアの受け入れなど、地元の方々を支え合う関係に努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者、職員は評価のねらいや活用法について理解しており、自己評価を全職員で実施し、ケアサービスの点検を図っています。外部評価を合わせた評価一連の過程を通じ、質の向上を目指し意欲的に取り組んでいます。評価結果は運営推進会議で報告しモニターされています。		

恵庭市 グループホームだんらんこがね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者・家族・地域・市・事業所の代表・知見者として他事業所から参加協力を得ながら、初回H18年7月26日より6回開催しています。グループホーム協議会道央ブロック作成の基本情報シートをもとに、運営やケアサービスなどを報告し、地域に密着した活動や地域貢献について意見を求めサービス向上を図っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催のグループホーム調整会議が年3回開催され、福祉サービスに関わる情報や事業所の現状報告などを行ないながら相談、助言、指導を享受し合う機会を確保しています。調整会議では課題解決に向けた協議がされ、市担当者と連携を図りサービス向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時にはさりげなく声かけをし、利用者の生活の様子を中心に健康状態や金銭出納状況について報告をしています。また、定期的に送付しているホーム新聞やお手紙では暮らしぶりやエピソード、職員の異動を知らせています。さらに、家族との交換ノートで詳細報告や交流に深めています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」の設置のほか、重要事項説明書にはホームの相談窓口、そのほかの窓口として公的機関の電話番号を載せ、苦情処理要領にもとづく対応を明示しています。日常的に話しやすい雰囲気作りとともに職員と家族の懇談会や、交換ノートを活用するなど、利用者家族の立場に立ち意見を反映させる仕組み作りがされています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が「辞める」その前に解決の手立てはないかを検討し対応しています。管理者やリーダー、法人部長が相談相手になり離職を最小限に抑える努力をしています。やむを得ず離職の場合は交代する職員と2週間の引継ぎを行ない、サービスの一貫性に支障をきたさぬ配慮や利用者のダメージ緩和に取り組んでいます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規定にもとづき採用時研修と継続研修を実施し全職員のスキルアップを図っています。外部研修への参加や勉強会の機会を確保しており、法人内では年1回、講師を招き全職員を対象にした研修会を開催して今日的な課題を中心に学習を深めています。また、職員の幅広い年齢層を活かし、年代に応じた持ち味や特技を共有しながら自己研鑽に努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人部長は、北海道グループホーム協議会道央ブロック事務局長を勤め、同会が主催し、年3回の職員の研修会を開催しています。ホーム間の見学は行なっていますが相互訪問研修については検討段階にあります。グループホーム調整会議では管理者や主任が出席し、ほかのグループホームとの連絡や相談、報告を通じて交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいます。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族と相談しながら、事業所見学や日帰り体験をして頂くなど、個別の利用調整を行なっています。住まい体験時では職員が必ず見守るなど、利用者の視点に立ち、安心して利用ができるよう柔軟に支援を図っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とのコミュニケーションを大切にし、調理や畑仕事などそれぞれの得意分野で生活の技や知識を教えてもらう関係を築いています。暮らしの中で、利用者が若い職員の表情を見て励ます場面があるなど、利用者の優しい心に触れながら感謝の気持ちで支えあう様子が伺えました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのように暮らしたいか、今までの生活歴を考慮し希望や意向を聞きながらその人らしく生活できるよう支援しています。希望の表出が困難な方には、行動やしぐさ、表情などによる訴えを見極め、意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となり、職員全員でモニタリング、カンファレンスを実施し解決すべき課題や安定継続に向けた具体的な方針を整理して介護計画を作成しています。本人、家族の思いを尊重し、医療関係者による意見やアドバイスを反映しながらチームでの作成に取り組んでいます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月の期間を設定して定期的に作成されており、1ヵ月に1度全員のカンファレンスを実施し、現状の確認や実情に応じた計画の見直しが行なわれています。介護計画と照合する記録方式を導入したケアプラン実施表で日々の暮らしの実情を把握し、変化の兆しを詳細に分析しながら見直しに繋げています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員と一対一による映画館や海、ステージ鑑賞など本人の出掛けたい場所へ外出支援を行ない、利用者の暮らしの質を高める個別ケアの実践に取り組んでいます。また、デイサービスセンターの空き時間や設備を利用した軽度の運動、通院や行事での家族を含めた移送サービスなど法人の資源を活かした柔軟な支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により、入居前からの馴染みの医療機関を受診できるようにしており、遠方より入居の場合は相談のうえ、ホーム協力医療機関での支援を行っています。利用者のかかりつけ医、訪問看護ステーションとの関係や連携を密にし、受診ノートに記録しながら適切な医療が受けられるよう体制を整えています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については家族の意向を聞きながら入居時などに説明をしており、必要に応じて家族や医療機関と方針の共有を図っています。ホームとしての「医療連携及び重度化に関する指針」を策定し文書化されており、家族の同意を得ています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人らしいあり方や、尊厳が保たれるよう言葉掛けや対応に十分配慮がされています。診療の為の医療機関への情報提供や行政機関の指導・調査に対する報告など目的を明示した「個人情報の第三者提供に関する同意書」を整備し、法令を遵守した取り扱いを行っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は出勤後、利用者全員に挨拶をしながら表情などにより精神面の状態の洞察を行なうなど、本人の望む過し方の把握に努めています。また、利用者の状況を見ながら声掛けを行なうなど、本人のペースや気持ちを大切にしながら柔軟に支援しています。		

恵庭市 グループホームだんらんこがね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のプロセスの重要性について理解され、買い物、調理、後片付けに至る一連の作業を一人ひとりの得意分野や意向に配慮しながら、職員のサポートのもと、一緒に行なっています。職員と利用者はともに食卓に付き同じ食事を取りながら、家庭的な雰囲気の中、彩りや季節感のある献立を味わっていました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日の設定はなく通常午後2時から夕食前までの時間帯で支援を行なっていますが、希望により遅出勤務者がいる間は夜間の入浴ができるようになっています。利用者の好みの色の入浴剤使用や一人ひとりに合う言葉掛けの工夫により現在、入浴を拒絶するケースはほとんどありません。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の好みや特技を活かした台所仕事や畑作り、手芸や物づくりなど、職員は日々のケアの中で一人ひとりの持てる力の発見や、限界を見極めながら、生きる充実感を味わっていただけるよう、場面作りを行ない支援に努めています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通常の散歩や日光浴、買物やホーム全体での外出支援のほか、本人の希望する場所へ出掛ける個別ケアが実施されています。一人ひとりの状態や習慣、希望などに応じて主体的に出掛け楽しめる機会作りに努め支援されています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一般家庭と同様に、夜間帯の午後7時30分～午前6時までは防犯のため玄関を施錠しています。日中帯は畑や花壇、ベンチへなど戸外に出たいときには自由に出られるように、利用者の外出傾向を把握して職員の見守りや連携プレーのもと鍵をかけないケアの大切さを理解し実践しています。		

恵庭市 グループホームだんらんこがね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回春と秋に消防署の指導のもと避難訓練を実施しています。夜間での実施訓練は利用者の不安や混乱を招くおそれから、代替策として、日中帯に、夜間帯での災害を想定したホーム独自の避難訓練を重ねています。水や乾パン、カロリーメイト、懐中電灯など災害に備えた備蓄品は準備されていますが、地域の方々へ協力の働き掛けはまだ実施されていません。	○	ホームでは、災害対策として地域住民との連携を図りながら協力体制を築いていく重要性を認識しており、今後、運営推進会議や自治会などに協力を呼び掛けることを計画していましたので、その取り組みが実際となるよう期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年2回協力病院の管理栄養士より食事内容のチェックを受け栄養指導やアドバイスをしています。一日の栄養摂取量は1500calを基準にし、献立は利用者の嗜好や希望を取り入れ、水分量は利用者の健康状態や医師の指導により個別の対応を図っています。一日の食事摂取量・水分量を記録して職員間で情報を共有しながら支援をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ロビーの戸を開けると一体的なリビング兼ダイニングルームが広がり、浴室・トイレが使いやすく隣接された共用空間になっています。昔なじみの和のパブリックスペースを設けたり、生花や利用者が制作した多様な作品の装飾や、職員のアイデアが活かされた掲示物など、季節感や生活感をふんだんに取り入れており、居心地のよさが感じられます。また、五感刺激の配慮もされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた馴染みの家具や生活に合わせた調度品を持ち込み、使い勝手の良いように配置しています。利用者に合わせた生活雑貨の収納の工夫や思い出の写真、自作品の装飾など、好みに応じながら安心して過せる居室空間を作っています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。